

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271300119		
法人名	2271300119		
事業所名	グループホームしおん		
所在地	駿東郡清水町徳倉1274-1		
自己評価作成日	令和3年 1月 27日	評価結果市町村受理日	令和3年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会		
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階		
訪問調査日	令和3年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>人と人とのつながりを大切にしています。 基本的な支援をしっかりと実施しています。 入居者様からでなく、職員からたくさんのありがとうを伝えています。 「ちょっとしたこと」にいち早く気付くことを大切にしています。 ご家族との関わりを重視し気軽に連絡が取れる方法の提案をしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>コロナ禍で様々な制限を受けながらも、ホーム近隣住民の方と顔を合わせれば手を振り合う等のできる支援に努めている。家族のホームへの来訪も制限しているため、電話やメール等で情報交換を行っている。外出も制限しており、運動機能向上のため習慣的に活用できるようリビングにミニサイクルを設置している。しおん食堂では、皆で楽しく作り食べる喜びを特に感じて頂いている。コロナ禍を明るく気持ちになるよう心こめて作り、入所者の楽しいひと時となっている。活動の様子は月1回発行のしおん便りに多くの笑顔と共に掲載している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し皆で共有するようにしています。	「優しい輪」を理念として掲げ、常に意識し特に月1回の職員会議で再確認している。ケアの際に他の利用者との関わり方も大切にして、その人らしく過ごせるよう職員で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所の方には職員から積極的に挨拶をしています。力仕事などお手伝いを頼まれたりしていません。	町内会に加入し回覧板も閲覧している。側溝掃除は地域の方と共有する時間を持つ機会として職員は意識して参加している。近隣の方が散歩でホーム近くを通ると手を振るなど、コミュニケーションをとっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域を対象とした認知症サポーター養成講座にキャラバンメイトとして参加し地域の方へ情報発信をしています。		
	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防の為、中止しています。	2ヶ月に1度、第3木曜日を定例として実施予定である。レジュメは作成しているが、コロナ禍のため実施に至っていない。	今年度はコロナ禍のため運営推進会議は実施していないが、今までの参加者にホームの現状や入居者の様子等を書面で報告するなど、関係継続が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括や町の開催する会議には必ず参加しています。	20事業所で構成しているグループホーム連絡協議会が4ヶ月に一度実施され、本会には管理者が参加し情報交換の場となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員への研修の実施や身体拘束ゼロ宣言を掲げ拘束の無いケアに取り組んでいます。	月1回開催する職員会議で身体拘束の研修も行っている。何気なく出てしまうスピーチロックも気になる際はその場で注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員へ研修にて予防や防止に心がけるよう認識の統一徹底をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員へ研修の案内を提示したり必要な時には包括や町から説明を受けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ずご本人、ご家族へ直接説明し疑問の残らないようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とメールや電話で交流をもち気軽に連絡してもらえる環境作りをしています。また苦情の窓口も掲示しています。	コロナ禍で家族とはメールや電話での情報交換が主になっている。しおん便りを毎月家族に郵送して日常を伝えている。入居者の写真を希望する家族には、USBで提供することもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を行い意見を集約、反映できるようにしています。日々の対話を重視し個人的な意見も聞き取るようにしています。	職員には日頃の勤務時に意見を聞くようにしている。リーダーの育成もできて、以前よりまとまりが出てきた。職員から排尿表の提案を受け、少ない人には水分補給を多くしたり、主治医に相談したり、排尿時間の規則性から自立に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休みはなるべく希望通り取れるようにしています。個別面談の機会を作り職員の話聴けるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染予防の為、中止しています。リモート研修のみ許可しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染予防のため、中止しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安を解消できるよう関わりを多く持つよう努力し、情報共有ノートを活用しています。 初期情報シートの活用をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	手紙や電話をするなど、近況の報告をするようにしています。 ラインやメールを活用して気軽に連絡を取れる方法、関係性を作っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	共有ノートを活用しそのときで変わる状況にみんなで対応できるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、利用者がお互いに助け合える関係性を築いています。 施すのではなく、一緒に考えることができるようにしています。 利用者に対してお礼を伝える環境を作っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お互いに気兼ねなく意見を言えるような関係性作りをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防の為、面会は断っています。	コロナ禍でホームへの来訪は原則遠慮して頂いているため、多くの入居者は家族との関わりが電話中心になっている。知人には年賀状で近況を知らせる支援をしている。	面会制限が今後も見込まれるため、家族から聞き取り、思い出の品やアルバム等で職員と情報共有し、回想できるような支援に繋げることが望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を考慮し職員が関り関係性が良好になるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話やメールなどでの連絡は利用終了後も継続して対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で良く話を聴き希望を把握できるようにしています。	日常の中で入居者の話を良く聞いて思いを把握し、職員間ではグループラインで共有することもある。入居者の生活も規制が多くなる今、スクラッチゲームがホームで流行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全職員が生活歴や入所経緯などを把握するために個人ファイルにまとめ確認できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人のペースを大切に自立支援ができるよう共有ノートなどを使用しながら現在の状況把握をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的な情報はノートを使い共有するようにしています。 ご家族やご本人と話し合いをして計画の立案をしています。	カンファレンスは1ヶ月毎に行い、6ヶ月毎に短期目標を見直している。歩行が困難な方には歩行器を使用し、更にリビングにあるミニサイクルで足を動かしている。運動機能を維持向上するために、習慣的に行うように工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケースにて情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や入院中のお手伝いをしています。 個別の外出は新型コロナウイルス感染予防の為、中止しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、中止しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医で対応できるようにしています。	現在8名がホームの協力医を利用し、2週間に1度定期往診がある。入居後、間もない方が、かかりつけ医からホーム協力医への変更を調整中である。24時間オンコールになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による日常的な健康管理や相談を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご家族や入院先の医療関係者と密に連絡を取り不安がないよう対応しています。インフォームドコンセントや退院カンファにも参加しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族やご本人の希望に添えるようできる限りの対応をしています。状況の変化に合わせてご家族やご本人の希望を何度も確認して対応しています。	入居時と重度化及び看取りの時期についての指針がある。今年度は2名の看取りを行ったが、管理者も対応するので混乱はない。居室に家族が宿泊することも可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練などで応急手当の実践をしたり、マニュアルを常備するなどの対応をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練や地域防災訓練に参加し、運営推進会議でも議題であげています。職員が消防団に入団し地域の中で有事の際の協力体制を築いています。	デイサービスとの合同訓練を7月に実施している。職員が消防団に入団しており心強く感じている。一昨年の台風時の教訓を生かし、洪水・土砂災害の避難計画を検討している。主治医による救急救命講習も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合った声掛けや関わり方をするよう努力しています。	職員は入居者の個性を理解し対応している。個人個人の生活のペースを大事にし、午後からゆっくり居室で過ごす方もいる。入居者の個人情報の管理は、鍵付き書庫で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の気持ちに寄り添いご本人の思いや希望をくみ取れるよう努力しています。 自己決定が不得意な方には2つの物事を示してどちらかを選んでもらいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを1番に考えているため日々の業務は臨機応変に対応できるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活習慣に合った整容ができるようにしています。 ご本人の趣味を把握するよう努力しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事、調理では好みのメニューを聞いて提供できるようにしています。 新型コロナウイルス感染予防の為、準備、片付けは職員が行っています。	コロナ禍で制約が多いため、美味しい物をみんなで作り楽しく食べることで、明るい気持ちにしている。誕生日のケーキは特に楽しみにしている。食事の前に口腔体操で唾液の分泌を促している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個々の活動量や体重を考え提供しています。 しっかりと食事量、水分量が摂取できているか確認をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の指示などを受けながら毎食後個々にあった口腔ケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導をして排泄の失敗がないようにしています。 一人ひとりの排泄パターンを把握するようにしています。 出来る限りトイレでの排泄を促し、自立度を最大限引き出せるよう努力しています。	トイレでの自立度を上げるため、2時間毎に時間を決めて誘導している。夜間も尿意を訴える方にはトイレ誘導している。排尿表を作成し、決まった時間での誘導や水分の摂り方等ケアに繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使用し医師や看護師の指示のもと対応しています。 自然排便を目指し運動も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望により日時を変更しながら対応しています。	1日3名として、ひとり週2回午前中に入浴している。入浴のない日は清拭も行っている。中には浴室内で見守りの方もいるが、概ねサポートしている。ゆず湯等で季節を感じてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬一覧を常備して把握できるようにしています。日々の薬のセットは薬剤師が行い服薬管理は職員が行っています。 管理薬剤師へ常に相談が出来る体制を整えています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の状態により出来ることを生活の役割として支援できるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、外出を中止しています。	外出はしていないので、季節を感じてもらうために職員が金木犀の枝を提供したり、七夕の飾りつけ等の季節の行事を工夫し大切にしている。身体を動かすためにボールを使ったり、輪投げや頭の体操等いつも以上にレクリエーションに力を注いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の管理能力によりご家族と協議のうえ決めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも対応できるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は窓の外の植物も含め季節感の出るような飾りつけをしています。 安全面に配慮して落ち着いて生活ができるようにしています。	共有のテーブルには季節の花を飾っている。壁には入居者の手作りの作品で季節感を出しており、今はお雛様が飾られている。共有空間にはコロナ対策として次亜塩素酸水を入れた大型加湿器を2台置いている。換気はこまめに行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性を考慮し席を決めています。自由に席を移動して会話を楽しんでいる方もいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の好みに合ったレイアウトにし、居心地良く過ごせるように努力しています。 自宅で使用していたものを居室に置かれている方も多くいます。	備え付けのベッドやクローゼット等も入居者の好みにレイアウトを変えている。テレビや仏壇を持って来る方もいる。絵が好きな方は壁に絵を貼ったり額に入れたり、趣味の継続になっている。家族の写真を大切に飾る方も多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援に向けた物品の配置や手すりなどで生活を支えています。		